

幼稚園

公開保育研究会の開催

附属幼稚園・副園長

上野由利子

たくさんの方の参観者に囲まれて

附属幼稚園では毎年、公開保育研究会を開き、幼稚園を中心に幼児教育に携わる先生方に参加を呼びかけています。今年度は、去る五月二十七日に行いました。

当日は雨予報にもかかわらず、時折日の差すまじみのお天気になり、附属幼稚園の豊かな自然を生かした遊びがあちらこちらで展開されました。この春に入園したばかりの新入児は、担任の先生との信頼関係ができ、幼稚園の生活がわかってきたところです。保育室周辺を中心に、戸外で草花の色水を作ったり、砂場で山や道を作り汽車を走らせたり、平均台やはしごを組み合わせて迷路をつくったりしてにぎやかに遊んでいました。また、子どもの森では、クラスの友達と一緒に先生を追いかけたり、たんぽぽの花を集めたりしていました。

年長児は、進級したときにクラス替えがあったのですが、気心の知れた友達ばかりです。友達と相談しながらサ-

キット遊びをしたり、仲間と力を合わせて砂場で長い水路をつくったり、虫を探したりなど、目的をもって友達と関わりながら遊んでいました。150名ほどの先生方が参観されていました。子どもたちはいつもと変わりなく自分たちの遊びに夢中でした。



お花をつかって色水あそび

今回の研究会のテーマは「自尊感の育ちを考える」としました。子どもた

ちに安心感を与えられる保育者であるよう心掛けながら、子どもたちが遊びの中で、喜びや楽しさだけでなく、めごとなどの心の葛藤を経験できる場、自己決定できる場を大切にしたいという思いをもって、保育実践している姿を見てもらいました。

園長先生は虫博士

園長先生は自然環境センターの教授で動物学の専門家でもあります。講義のない時間に幼稚園に顔を出すと、子どもたちが「園長博士だ」と寄ってきます。幼稚園には自然がいつぱいの森があり、いろいろな虫たちが生息しています。

この日は、朽ちた太い木の枝を見つけた子どもたちが、木の中に潜んでいる虫を見たいと、「博士」のところに集まってきました。木をのこぎりで輪切りにしてもらい、指で中を掘りこんで、蟻や幼虫、小さな虫たちを真剣なまなざしで探していました。見つけた虫は「博士」に写真を撮ってもらい、名前などを調べる楽しみもあります。子ども

たちにとって、園長先生は何でも知っている頼もしい仲間のようです。



園長先生と虫探し

午後は学年別分科会

午後からは研究説明の後、学年別に分かれてテーマを深めました。参加の先生からは、当日の保育や子どもの様子、自尊感を育てるための働きかけなどについての質問や意見が活発に出されました。子どもたちが未来に向かって生きていくためには、「かけがえのない自分を大切に思う心」を育ててほしいと話していました。子どもたち一人ひとりを大切にすること、子どもたちの心の育ちを考える必要性を改めて確認し、有意義な研究会となりました。